

2025 年度

群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室

**学部・附属学校共同研究推進委員会  
報告書**

2026 年（令和 8 年）3 月

## 目次

I. はじめに	…………… 2
II. 学部・附属学校共同研究推進委員会の構成	…………… 2
III. 2025年度附属学校園研究会報告	
1. 附属幼稚園研究会	…………… 3
2. 附属小学校研究会	…………… 4～5
3. 附属中学校研究会	…………… 6～7
4. 附属特別支援学校研究会	…………… 8～9
IV. 2025年度共同研究活動報告	
1. 附属幼稚園	…………… 10
2. 附属小学校	…………… 11～12
3. 附属中学校	…………… 13～14
4. 附属特別支援学校	…………… 15～16

## I. はじめに

学部・附属学校共同研究推進委員会委員長 足達 哲也

本冊子は、令和 7 年度の群馬大学共同教育学部と附属学校園との共同研究の成果を報告するものである。学部と附属学校園の共同研究は、理論と実践を結び付け、よりよい教育のあり方を探求する上で極めて重要である。大学での理論的研究と附属学校園での実践を協働させることで、理論的知見を実践で検証し、実践から得られた知見を理論的に整理する循環が生まれ、教育の質的向上に資することができる。

学校教育を取り巻く環境は大きく変化し、少子化の進行、地域社会の変容、教員の働き方改革など、多様な課題が山積する中、国立大学には地域の学校と連携しながら教育課題を発見し、解決策を模索し、成果を社会に還元することが求められている。

本学における共同研究では、大学教員の理論研究を附属学校園の授業実践において検証し、その結果を踏まえて改善を図り、再び理論として体系化することで、実践に根ざした「生きた知識」を創出している。附属学校園は新たな教育方法を試行する「実験校」としての機能を有しており、ここでの授業実践や学校運営上の工夫を大学の研究と結合させることで、全国の学校現場に有用な教育モデルを発信できる。特に、附属学校園において実証された授業方法や評価手法は、客観的なデータや子どもたちの学びの変容といったエビデンスとともに整理され、地域の学校や国の教育政策に対して具体的かつ説得力のある提言として提示される。

他方、共同研究に取り組む教員の視点から捉えれば、大学教員と附属学校園教員の双方にとって貴重な学びの機会となる。大学教員は、自らの理論が現場でどのように受容されるかを直接確認し、新たな研究課題を発見できる。一方、附属学校園教員は、最新の研究知見に触れながら自身の実践を省察し、専門性を向上させることにつながる。このような相互作用こそが、国立大学における附属学校園の存在意義を明確にするものである。

本報告書は、これまでの共同研究における成果と課題を総括し、今後の方向性を提示するものである。理論と実践を架橋するこの取組こそが、本学の存在意義を明確化するものであると確信している。子どもたちが学ぶ教室という現場に根ざした共同研究を通じて、国立大学の新たな可能性を切り拓いていきたいと考えている。

## II. 学部・附属学校共同研究推進委員会の構成

委員長	共同教育学部附属小学校校長	足達 哲也
副委員長	共同教育学部附属小学校教頭	内田 圭祐
	共同教育学部 教授（教育実践センター）	吉田 浩之
	共同教育学部 准教授（教育実践センター）	佐々木英男

### Ⅲ. 附属学校園研究会報告

#### 1. 附属幼稚園研究会

公開研究会

○ 日時 令和7年11月8日(土) 8時10分～16時00分

○ 研究主題：あきらめないでやり遂げる幼児の姿を育む保育  
 - 「必要な力」を培うための環境の工夫 -

○ 研究の概要：本園幼児が「あきらめないでやり遂げる」姿に近づくための実践研究に取り組んでいる。抽出児を決め、事例をもとにカンファレンスを行い、「あきらめないでやり遂げる」ために必要な幼児の力を培うための環境の工夫を考え、実践している。

○ 保育を語る会

学 級 名		保 育 者		指 導 助 言 者
3歳児(3年保育)	桃組	小出 奈津江	浅沼 直子	都丸 千寿子 先生 横坂 好枝 先生
	空組	吉野 裕介	金澤 菜奈美	
4歳児(3年保育)	黄組	小峰 菜緒	若松 史子	大島 みずき 先生 荒瀬 優子 先生
	赤組	尾高 貴子		
5歳児(3年保育)	緑組	前原 未明	須田 亜希子	高橋 恵津子 先生 伴内 弘美 先生
	青組	岩本 美里		





## (2) 公開提案授業

- 研究主題：新たな価値を創造する子どもの育成（1年次）  
～「あそび」のある学びのデザイン～
- 研究の概要：「新たな価値を創造する子ども」の育成を図るために、「あそび」のある学びに着目し、その姿が現れるプロセスと学びのデザインの在り方について、実践を通して明らかにする。

	<p><b>&lt;英 語 科&gt;</b> 令和7年11月 7日(金) 13:15~14:00 第6学年「What can WE do? ~SDGs for Me and You~」 授業者：齋藤 一紀</p>
	<p><b>&lt;図画工作科&gt;</b> 令和7年11月10日(月) 13:15~14:00 第3学年「あらら あきうらら(絵に表す)」 授業者：貞永 瞳</p>
	<p><b>&lt;体 育 科&gt;</b> 令和7年11月18日(火) 13:15~14:00 第2学年「おにあそび」 授業者：石塚 祐子</p>
	<p><b>&lt;理 科&gt;</b> 令和7年11月20日(木) 13:15~14:00 第4学年「金属, 水, 空気と温度(温まり方の違い)」 授業者：吉田 和気</p>
	<p><b>&lt;道 徳 科&gt;</b> 令和7年12月11日(木) 13:15~14:00 第5学年「正義をつらぬく (『ガンジーのいかり』『光輝の告白』)」 授業者：横尾紗也香</p>
	<p><b>&lt;音 楽 科&gt;</b> 令和7年12月12日(金) 13:15~14:00 第4学年「いろいろな音のひびきで表現しよう」 授業者：紺野 伶音</p>
	<p><b>&lt;社 会 科&gt;</b> 令和7年12月15日(月) 13:15~14:00 第6学年「世界に歩みだした日本」 授業者：中野 智貴</p>
	<p><b>&lt;家 庭 科&gt;</b> 令和7年12月17日(水) 13:15~14:00 第6学年「家族への贈り物を作ろう」 授業者：小鮎 祐花</p>
	<p><b>&lt;算 数 科&gt;</b> 令和8年 1月20日(火) 13:15~14:00 第2学年「分数」 授業者：佐藤 優太</p>
	<p><b>&lt;生 活 科&gt;</b> 令和8年 1月22日(木) 13:15~14:00 第1学年「わくわく どきどき ようこそ しょうがっこう!」 授業者：飯塚 理志</p>
	<p><b>&lt;国 語 科&gt;</b> 令和8年 1月30日(金) 13:15~14:00 第5学年「読む人を意識して構成を考え、物語を書こう (『もう一つの物語』光村図書5年)」 授業者：前原 聡</p>

### 3. 附属中学校研究会

#### (1) 公開研究会

○ 日時 令和7年10月9日(木), 10日(金)

○ 研究主題:

実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成  
～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～

○ 研究の概要: 予測困難で不確実な時代においては、生徒が受動的に学ぶのではなく、自らが実現したい未来に向けて責任をもち、答えのない課題にも挑戦し続ける力を育成することが重要であると考えます。今年度は、OECD ラーニング・コンパス 2030 に示される「エージェンシー」を中核概念として、各教科等の授業において生徒がエージェンシーを発揮し、コンピテンシー(資質・能力)を高めていく学びの在り方について実践研究を行った。特に、生徒自身が学びを見通し、行動し、振り返る AAR サイクルを自律的に回すことが、エージェンシーの発揮と資質・能力の育成を相互に高め合うことに着目した。また、「未来創造科(総合的な学習の時間)」の実践を通して、教科等で育成された資質・能力を横断的に活用し、現代的な諸課題に主体的に向き合う学びの実現を目指した研究を進めている。

9日  
(木)

8:30	9:00	9:15	9:40	9:55	10:45	10:55	12:05	12:55	13:45	13:55	15:05	15:20	16:40
1日目	受付	開会式	全体会議 総論 未来創造科 説明	移動	公開授業 ①	移動	授業研究会 ①	昼食	公開授業 ②	移動	授業研究会 ② 未来創造科 ワークショップ	移動	講演会

国語 「本質的な問い」を基に探究をデザインして、自分の考えを広げたり深めたりする生徒」の育成

 <p><b>授業者：佐藤 誠一郎</b> 公開授業①：AIは習学できるか（3年2組） 単元導入で立てた学習計画に従って探究したり、学習計画を繰り返したりと、試行錯誤しながら学びに向かう姿をお見せします。</p>	 <p><b>授業者：新井 英雄</b> 公開授業②：走れメロス（2年4組） 「走れメロス」は何のために学ぶのか？物語を学ぶ意味を、みんなで考えましょう。</p>	<p>（指導助言者） 群馬県教育委員会 義務教育課 指導主事 桐生 直也 群馬大学共同教育学部 教授 瀧田 秀行</p>
---	--	--


社会 「平和で民主的な考えから、実現したい未来を切り拓く生徒」の育成

 <p><b>授業者：生方 佑樹</b> 公開授業①：現代の民主政治と社会（3年1組） 「よりよい社会をつくるために、何が必要なだろうか？」生徒自身がそれぞれの課題解決に向けて追究する姿をご覧ください。</p>	 <p><b>授業者：剣持 智之</b> 公開授業②：中部地方（2年1組） 「中部地方から学べることは、他の地域にどう生かせるだろうか？」中部地方の探究を通して、よりよい日本を創るヒントをつかもうとする姿をご覧ください。</p>	<p>（指導助言者） 群馬県教育委員会 義務教育課 指導主事 谷田部 晋博 群馬大学共同教育学部 准教授 栗谷 好子</p>
--	---	--


理科 「自然現象から課題を設定し、自ら科学的に探究する生徒」の育成

 <p><b>授業者：木村 貴博</b> 公開授業①：化学変化と電池（3年3組） 生徒自身が課題を解決するための方法を立案し、自分の学びをデザインしながら探究する姿をご覧ください。</p>	 <p><b>授業者：斉藤 剛志</b> 公開授業②：音の性質（1年1組） 身近なものを楽器にし、奏でる音の大小や高低から課題を見つけ、自らの探究をデザインしながら、その解決を目指します。</p>	<p>（指導助言者） 文部科学省 国立教育政策研究所 学力調査官 神 幸幸 群馬県教育委員会 義務教育課 指導主事 加瀬 健 群馬大学共同教育学部 教授 益田 裕充</p>
---	---	--

音楽 「自身と社会と音楽の関係を探究し、自己を確立し続ける生徒」の育成

 <p><b>授業者：羽鳥 文仁</b> 公開授業①：My Melody（1年4組） 奏したい音楽について思いや意図をもちながら音のつながり方を工夫して旋律創作を行います。知覚と感覚を結びつけながら楽曲を伴って理解していく姿をお見せします。</p>	<p>（指導助言者） 群馬県教育委員会 義務教育課 指導主事 黒谷 英里 群馬大学共同教育学部 講師 伊東 剛</p>
---	---

美術 「美術と社会の関わりについて探究し、新たな価値を創造することができる生徒」の育成

 <p><b>授業者：多胡 慎平</b> 公開授業②：世界の救国と出会う（1年3組） 言葉をつけることは自分の目になることにつながる。「やりたい自分の姿」とは、どのような姿なのか。どのような色や形で表すことができるのか検討していく姿をお見せします。</p>	<p>（指導助言者） 群馬県教育委員会 義務教育課 指導主事 藤崎 敬太郎 群馬大学共同教育学部 教授 齋江 貴志</p>
---	---

未来創造科 「社会と関わり合いながら探究し、「実現したい未来」を創造する生徒」の育成

 <p><b>授業者：小野 健太</b> 公開授業①：群馬を知る「現在を変える」（1年2組） よりよい提案につなげていくために、社会とのつながりを通して得た情報を整理・分析する方法を検討していく姿をお見せします。</p>	<p>（指導助言者） 群馬県教育委員会 義務教育課 指導主事 飯塚 慎也</p>	<p><b>授業者：山口 智也（3学年職員）</b> 公開授業②：講座内発表会 （講座①環境、防災、エネルギー 講座②健康、福祉） 生徒がこれまでに探究した内容を発表いたします。生徒が自分たちで進めてきた探究をご覧ください。</p>
---	--	--

「OECDティーチング・コンパスに関わる講演会」

※フランスパリより、オンラインでご講演いただきます。参加の方のみご参加いただけます。

・AI時代における「エージェンシー」とは？  
・教科と探究を関連させ、学びを支える教師の在り方とは？

OECD 教育スキル局 シニア政策アナリスト 田熊 美保 様

近年、社会の変化はますます加速し、予測困難な時代において、子どもたちが自らの人生を主体的に切り拓いていく力が求められています。OECD では、こうした未来に備えるための教育の在り方として「ラーニング・コンパス 2030」を提唱し、知識・スキル・価値観を統合的に育む新たな学びの枠組みを提示しています。また、子どもたちの学びを支える教師自身の姿勢や成長を見つめ直す「ティーチング・コンパス」の考え方も、これからの教育実践において注目されています。本講演では、OECD 職員を講師に迎え、国際的な視野から「これからの教育」の方向性を共有するとともに、学校現場での実践にどのように生かしていくかを探ります。先生方一人一人が、これからの教育の羅針盤を手にする機会となれば幸いです。

10日  
(金)

8:30	9:00	9:15	9:40	9:55	10:25	10:55	12:05	12:55	13:45	13:55	15:05
受付	開会式	全体会議 総論 未来創造科 説明	移動	公開授業 ①	移動	授業者 研究 ①	昼食	公開授業 ②	移動	授業者 研究会 ②	未来創造科 ワークショップ

数学 「数学と実社会を結び付けて自ら探究し続ける生徒」の育成



**授業者：宇賀神 啓資**  
公開授業①：平面図形（1年3組）  
PVカード(point of view card)を使い、日常の中に潜む模様を観察を通して、生徒たちの言葉から単元の課題を設定します。



**授業者：高山 慶介**  
公開授業②：平行と合同（2年4組）  
図形の角の性質について、新たな疑問を自ら見だし、何を学べばよいかを自身でデザインし、解決していく姿をお見せします。

(指導助言者)  
群馬県教育委員会 業務教育課 指導主事 **浦野 正**  
群馬大学共同教育学部 准教授 **澤田 麻衣子**

英語 「よりよい人間関係を築くために表現方法や表現内容を試行錯誤し続ける生徒」の育成



**授業者：小野里 健太**  
公開授業①：Lesson 6 School life in the U.S.A.（1年4組）  
コミュニケーションの相手とよりよい人間関係を築けるように、発信者と受信者双方が自らの学びをデザインし、表現方法と表現内容を試行錯誤し続けます。



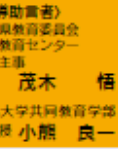
**授業者：岡田 尚子**  
公開授業②：PROGRAM 6 High-Tech Nature（2年1組）  
生徒が相手意識をもって試行錯誤しながらよりよい表現方法や表現内容を構築していきます。

(指導助言者)  
群馬県教育委員会 業務教育課 指導主事 **相川 美智子**  
群馬大学共同教育学部 講師 **津久井 貴之**

技術・家庭 「生活や社会を見つめ、理想とする姿に向けて工夫し創造する生徒」の育成



**授業者：山崎 真**  
公開授業①：生活をよりよくする計測・制御システム（3年3組）  
よりよい生活に向けて、計測・制御システムの開発に取り組み、自ら学習計画をデザインする生徒の姿をご覧ください。



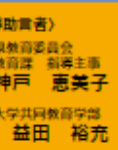
**授業者：大竹 成美**  
公開授業②：私たちの衣生活（2年2組）  
「よりよい衣生活とは何か？」という問いを出発点に、現代的な課題を衣生活の視点から見え、解決に向けて自分のアイデアを形にしていくながら、見直しをもって探究する生徒の姿をご覧ください。

(指導助言者)  
群馬県教育委員会 業務教育課 指導主事 **杉山 紀子**  
群馬大学共同教育学部 准教授 **中里 真一**

道徳 「道徳的課題を自分事として捉え、自己のよりよい生き方を考え続ける生徒」の育成



**授業者：瀬戸 辰徳**  
公開授業①：よりよい人間関係を築くためには（3年4組）  
「友達とよりよい人間関係を築くためには、どんなことが大切か？」他者と考えを交流しながら、多角的、多面的に考えを再考し、自分の生き方を考え続ける姿をお見せします！



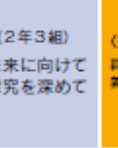
**授業者：藤原 梨花子**  
公開授業②：陸上競技「走り高跳び」(1年2組)  
「できない」から「できる」へ。自分で練習計画を立てて、運動を楽しみながら学ぶ姿をお見せします。

(指導助言者)  
群馬県教育委員会 健康体育課 指導主事 **小山 靖弘**  
群馬大学共同教育学部 准教授 **免澤 陽子**

未来創造科 「社会と関わり合いながら探究し、「実現したい未来」を創造する生徒」の育成



**授業者：金井 亨平**  
公開授業①：日本を巡る「現在を変える」(2年3組)  
沼田中との交流の中で、実現したい未来に向けて自己の生き方を見つめ直し、自らの探究を深めていく姿をお見せします！



**授業者：山口 智也(3学年職員)**  
公開授業②：講座内発表会(講座②社会、情報、経済 講座④伝統・文化、教育)  
生徒がこれまでに探究した内容を発表いたします。生徒が自分たちで進めてきた探究をご覧ください。

(指導助言者)  
群馬県教育委員会 業務教育課 指導主事 **飯塚 慎也**

両日開催！ 未来創造科ワークショップ「生徒とともに、未来を描く授業へ」

本ワークショップでは、カリキュラムや活動事例、評価の工夫などを共有しながら、これからの総合の可能性を参加者の皆さんとともに探ります。日々の実践を持ち寄り、対話の中から今後の総合・探究のあり方についてヒントを見つける時間にしていきましょう。

企画：山口 智也



(指導助言者)  
群馬大学共同教育学部 教授 **上原 永次**

未来創造科  
ガイドブック 2024

#### 4. 附属特別支援学校研究会

##### (1) 校内研究授業（県内特別支援学校初任者研修提供授業）

- 授業研究会 令和7年6月20日（金）
- 目的
  - ・初任者への授業提供と授業研究会を通して、令和6年度から令和7年度6月まで取り組んできた研究の成果と課題を見出し、今後の取り組むべき研究内容を一層確かにすること。
  - ・研究協力者と協議を行う中で、研究内容やこれまでの取組についての評価・改善の機会とすること。

学部	単元名・題材名	教科 (領域)	授業者
小学部	「『とんとんとん』あつめて よもう 2くみのえほん!」	国語科 (読むこと)	山崎 真由 竹渕 輝昭 斎藤 駿佑
中学部	「かまえて ぶって うって 剣道の達人になろう」	保健体育科 (武道)	島田 大樹 河内 英恵 小林 弥生
高等部	「スキルを身に付けて依頼された仕事をしよう」	作業学習 (教科等合わせた指導)	高坂 周平 小倉 彩 小泉龍之介

## (2) 公開研究会

- 令和7年11月7日（金）
- 研究主題：自分の思いや考えをもち、社会とかかわる児童生徒の育成（2年次）  
～子どもが願いの実現に向かう中で、思いや考えを巡らせる授業実践～
- 研究の概要：本校の学校教育目標「よりよい自立と社会参加ができる児童生徒を育成する」の達成を目指す中で、児童生徒の内面（思いや考え）を大切に授業実践を行っていく。教師が、子どものもつ思いや考えを捉えて認めたり、支援に生かしたりすることで、子どもは、自信をもって課題に取り組んだり、徐々に活躍の場を広げていったりすると考えられる。

3年計画の2年目である今年度は、子どもが自ら思いや考えをもって学習活動に取り組むために、授業作りや実際の授業において、どのような手立てが有効であるかについて検討する。

公開研究会では、子ども自身が“こうしたい”“こうなりたい”という「願い」をもって学習活動に取り組むための手立てを明らかにするとともに、授業構想シートを活用し、子どもが「願い」の実現に向けて思いや考えを巡らせるための活動や支援の工夫を行った。

学部	単元名・題材名	教科 (領域)	授業者
小学部	「ぼーるらんどでみて!なげよう!」	体育科 (ボール遊び・ボールを使った運動やゲーム)	須藤 也子 武井 香織 竹渕 輝昭 長田 紗綾
	「つくってあそぼう 〇〇らんど」	生活単元学習 (教科等を合わせた指導)	猪浦 彩夏 矢野 修平 清水 愛
中学部	「かたちをみつけよう」	数学科 (図形)	河内 英恵 本田 寛之 小林 弥生
	「『すてき』にかざろう」	美術科 (デザイン)	高橋 初穂 小須田朱里
高等部	「かたちとわたし ～組み合わせて広がる世界～」	美術科 (絵画)	羽子田瑞穂 小泉龍之介 高坂 周平 小倉 彩
	「計画的にお金を使おう」	生活単元学習 (教科等を合わせた指導)	和田 拓 酒井 莉紗 大友みのり

## IV. 共同研究活動報告

### 1. 附属幼稚園

#### (1) 共同研究

大島みずき：公開研究会を含む保育及び研究についての通年における助言

#### (2) 共同研究例

##### ○ 研究に係る指導助言

- ・テーマ：あきらめないでやり遂げる幼児の姿を育む保育

－「必要な力」を培うための環境の工夫－

- ・期日：令和7年5月21日（水）

- ・参加者：山藤 こず恵，新嶋 真澄，吉野 裕介，小出 奈津江，尾高 貴子，  
小峰 菜緒，前原 未明，岩本 美里

- ・概要：今年度の研究の進め方について話し合った。幼児に「あきらめないでやり遂げる」ために必要な力が培われていることを確かめていくように，抽出児を決め，その姿を追っていくことや，抽出児の選び方などについて指導助言を受けた。また，カンファレンスの際には，抽出児のエピソードを文章や写真で提示することで，イメージがつきやすく，スムーズに話し合いができるだろうと助言を受けた。

- ・期日：令和7年11月8日（土）公開研究会

- ・概要：保育を語る会における指導講評

##### ○ 研究に係る保育実践への指導助言

- ・テーマ：あきらめないでやり遂げる幼児の姿を育む保育

－「必要な力」を培うための環境の工夫－

- ・対象：4歳児

- ・保育実践者：尾高 貴子，小峰 菜緒，若松 史子

- ・期日：令和7年10月9日（木）

- ・概要：保育実践における幼児の姿や環境の構成について検討を行った。保育を振り返り，教師の支援や環境の再構成が幼児にどのような影響を与えたか，また，改善点について指導助言を受けた。この学年の幼児たちが，昨年度からどのように育ってきているかという点についても，より深い気付きを得ることができた。幼児理解を深めたり，環境の構成について再検討したりする機会となり，研究主題への理解を深めた。

## 2. 附属小学校

### (1) 共同研究一覧

全体研究 4月～6月 共によりよい生活を創造する子どもの育成 ～非認知能力「自信」を深める学びのデザイン～  
9月～3月 新たな価値を創造する子どもの育成 ～『あそび』のある学び』のデザイン～

教科・対象	附属小教員	学部教員	研究テーマ・内容
国語科	前原 聡 中島 璃子	河内 昭浩	研究会 4月～6月：話や文章の言葉にこだわり、正確に理解したり適切に表現したりする言語能力を高める学び 9月～3月：話や文章の言葉にこだわり、正確に理解したり適切に表現したりする言語能力を高める学び
	前原 聡 中島 璃子	河内 昭浩	「群馬・これからの国語の学び研修会」への協力（コーディネーター）
	紺野 伶音	河内 昭浩	大学生の卒業論文のための実践への協力
	高橋 洋介 前原 聡	河内 昭浩	大学院生の修士論文のための実践への協力
社会科	中野 智貴 井出 悠介	宮崎 沙織	研究会 4月～6月：自らの力で社会的事象の仕組みや実社会と自らの関わり方を見いだす学び 9月～3月：社会生活における人々の営みやその仕組みとその価値を認識し、それらを基に実社会と自らの関わり方を見いだす学び
算数科	佐藤 優太 足尾 勇輝	澤田麻衣子	研究会 4月～6月：事象を数理的に捉え、表現し、評価・改善を繰り返して、よりよい解決方法にする学び 9月～3月：事象を数理的に捉え、表現し、評価・改善を繰り返して、よりよい解決方法にする学び
理科	吉田 和氣 神 知己	益田 裕充	研究会 4月～6月：生活の中にある自然の事物・現象についての自他の不確かな考えを基にした問題を科学的に解決する学び 9月～3月：既にもっている自然の事物・現象についての考えを科学的な考えにする学び
	吉田 和氣	栗原 淳一	検証計画の立案における結果の見通しをもたせる指導の有効性に関する研究
	吉田 和氣	栗原 淳一	主体的に学習に取り組む態度の育成に向けた教師の導入場面におけるフィードバックに関する研究
生活科	飯塚 理志 茂木 幹生	大島みずき	研究会 4月～6月：自分の思いや願いを自覚し、自分の進捗状況を振り返りながら対象と関わり続け、思いや願いを実現しようと試行錯誤する学び 9月～3月：自分の活動を振り返り、他者と協力したり、考えを取り入れたりして、対象と関わり続け、その中で対象に対する自分なりの価値を見だし、言葉にできる学び
総合的な学習の時間	飯塚 理志 茂木 幹生	音山 若穂	研究会 4月～6月：思いや願いを基に課題を設定し、その解決に向けて自ら関わり、新たな価値を見いだしていく学び 9月～3月：自分の活動を振り返り、他者と協力したり、考えを取り入れたりして、対象と関わり続け、その中で対象に対する自分なりの価値を見だし、言葉にできる学び
音楽科	紺野 伶音 稲森 雅明	吉田 秀文	研究会 4月～6月：感性を働かせて、音や音楽から感じ取った曲想と聴き取った音楽の構造を結び付け、自分のイメージや感情・経験と関連付けながら自分にとっての音楽のよさや美しさを確かなものにし更新したりする学び 9月～3月：感性を働かせて、音や音楽から感じ取った曲想と聴き取った音楽の構造を結び付け、自分のイメージや感情・経験と関連付けながら自分にとっての音楽のよさや美しさを確かなものにし更新したりする学び
図工科	貞永 瞳 毛塚 鮎美	郡司 明子	研究会 4月～6月：対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分にとっての意味や価値をつくりだす学び 9月～3月：対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分にとっての意味や価値をつくりだす学び
家庭科	小附 祐花	鎌野 育代 中里 真一	研究会 4月～6月：日常生活の中から見いだした問題から設定した課題を、実践的・体験的な活動を通して解決し、生活をよりよくする学び 9月～3月：日常生活の中から見いだした問題から設定した課題を、実践的・体験的な活動を通して解決し、生活をよりよくしようとする学び
体育科	石塚 祐子 藤井 祐聖	鬼澤 陽子	研究会 4月～6月：「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して、運動やスポーツのもつ楽しさや喜びを実感する学び 9月～3月：「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して、運動やスポーツのもつ楽しさや喜びを実感する学び
	高橋 洋介 藤井 祐聖	鬼澤 陽子	大学院生の博士論文のための実践への協力
特別の教科 道徳	横尾紗也香 長嶋 愛香	山崎 雄介	研究会 4月～6月：子どもたちが、自己を見つめたり、多面的・多角的に考えたりすることを自ら繰り返し、よりよく生きる基盤となる道徳性を育てていく学び 9月～3月：子どもたちが、自己の道徳的価値観を見つめ、多面的・多角的に考えながら、自己の生き方についての考えを深める学び
英語活動 英語科	齋藤 一紀 原 雄規	津久井貴之 渡部 孝子	研究会 4月～6月：目的や場面、状況等のある言語活動を通して、他者と考えや気持ちを分かり合い、コミュニケーションを回る楽しさを実感する学び 9月～3月：目的や場面、状況等のある言語活動を通して、他者と考えや気持ちを分かり合い、コミュニケーションを回る楽しさを実感する学び
学級活動	吉田 和氣	鈴木 豪	教師の教育観は児童にどう届くのか―担任教師の信念と児童の認知・学級内での自己評価との関係―
群馬大学共同教育 学部教職実践 センター	吉田 和氣	林 和弘 上原 永次 益田 裕充	科学的な問題解決を行う力の育成に向けた学習デザインに関する研究 ―対立する予想・仮説から、科学的な考えを構築する児童の学びに着目して―
研修会	全教職員	吉田 浩之	いじめ問題の理解と対応
研修会	全教職員	益田 裕充	次期学習指導要領の改訂に向けた「論点整理」について

## (2) 共同研究例

### ○ 理科 共同研究授業実践

- ・テーマ：「科学的な問題解決を行う力の育成に向けた学習デザインに関する研究—対立する予想・仮説から，科学的な考えを構築する児童の学びに着目して—」
- ・対象：第4学年
- ・授業者：吉田 和気
- ・期 日：令和7年9月～12月
- ・概要：予測困難な時代（VUCA）において，主体的な判断・行動ができる力の育成が重要視されている中で，他者との対話を通じて予想を練り上げ，仮説を形成する過程を重視している。しかし，現状の小学校理科ではこうした実践が十分ではないと考えた。そこで，「対立する予想・仮説」から科学的な考えを構築する児童の学びに焦点を当てて研究を進めた。
- ・学習デザイン：児童が対立する仮説を発想し，他者と共に検討できるようにするため，単元の導入等で多義的に思考できる自然の事物・現象を提示する。これにより，個人の経験だけに頼りすぎず，共通の体験に基づいた活発な対話を促す。
- ・研究の方法と実践：研究では，以下の2つの授業実践を通じて質的な分析を行った。

#### 【授業実践1（第4学年「水の沸騰」）】

沸騰した泡の正体が「空気」か「水蒸気」かという，どちらか一方しか成り立たない「排他性」のある予想を提示させることで，立場を明確にした活発な対話と仮説形成が行われることを確認しました。



#### 【授業実践2（第4学年「月と星」）】

月の動く向きについて「太陽と同じ説」と「太陽と逆説」を検討させました。特定の立場に立って「もし～だとすると」と可能性を検討していく思考力が養われることや，子ども自身が仮説の検討の必要性を判断できるようになることが示された。



- ・今後の課題：対立する予想・仮説ではない場合（同時に成り立つ事象など）において，どのような資質・能力が養われるかについては今後の研究課題とされている。

### 3. 附属中学校

#### (1) 共同研究一覧

教科・対象	附属中教員	学部教員	研究テーマ・内容
国語科	新井英雄 佐藤誠一郎 高橋正人	濱田 秀行	研究会：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成 ～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～ 4月～10月：「本質的な問い」を基に探究をデザインして、自分の考えを広げたり深めたりする生徒の育成
社会	生方 佑樹 剣持 智之 千明 隼	粟谷 好子	研究会：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成 ～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～ 4月～10月：平和で民主的な考えから、実現したい未来を切り拓く生徒の育成
数学科	高山 慶介 山口 智也 宇賀神 啓資	澤田麻衣子	研究会：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成 ～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～ 4月～10月：数学と実社会を結び付けて自ら探究し続ける生徒の育成
理科	斉藤 剛志	益田 裕充	研究会：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成 ～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～ 4月～10月：「自然現象から課題を設定し、自ら科学的に探究する生徒」の育成 卒業論文：中学生の科学的な概念に関する研究-分解者の概念形成を中心に-（研究支援）
		益田 裕充 上原 永次	中学校理科において生徒がエージェンシーを発揮し探究的な学びをデザインするための実証的研究（群馬大学共同教育学部紀要自然科学編 第73巻 論文投稿）
	櫻井 康之	益田 裕充	卒業論文：「変数を見いだす力」の測定に関する研究-IRTの手法を用いて-（研究支援） 卒業論文：課題を設定する力の育成に関する研究-課題6パターンに着目して-（研究支援）
	木村 貴博	益田 裕充	卒業論文：探究の過程を振り返る理科授業に関する研究-帰納的活動の有効性に着目して-（研究支援） 卒業論文：考察の妥当性を高めるための方法論（研究支援）
音楽科	羽鳥 文仁	伊東 陽	研究会：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成 ～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～ 4月～10月：自身と社会と音楽の関係を探究し、自己を確立し続ける生徒の育成
美術科	多胡 慎平	齋江 貴志	研究会：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成 ～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～ 4月～10月：「美術と社会の関わりについて探究し、新たな価値を創造することができる生徒」の育成
技術科	山崎 真	小熊 良一	研究会：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成 ～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～ 4月～10月：生活や社会を見つめ、理想とする姿に向けて工夫し創造する生徒の育成
家庭科	大竹 成美	中里 真一	研究会：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成 ～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～ 4月～10月：生活や社会を見つめ、理想とする姿に向けて工夫し創造する生徒の育成
保健体育	金井 亨平 齋藤 梨花子	鬼澤 陽子	研究会：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成 ～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～ 4月～10月：運動やスポーツを多様な関わり方で楽しみ、心的エネルギーを獲得できる生徒の育成
道徳科	瀬戸 辰徳	益田 裕充	研究会：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成 ～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～ 4月～10月：道徳的課題を自分事化して捉え、自己のよりよい生き方を考え続ける生徒の育成
未来創造科	山口 智也 小野里 健太 高山 慶介 生方 佑樹 金井 亨平 櫻井 康之 粟本 郁夫	上原 永次	研究会：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成 ～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～ 4月～10月：社会と関わり合いながら探究し、「実現したい未来」を創造する生徒の育成 センター紀要：社会と関わり合いながら実現したい未来を探究する未来創造科（総合）の実践的研究（共同研究）
英語科	小野里 健太 岡田 尚子 瀬戸 辰徳	津久井貴之	研究会：実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成 ～エージェンシーを発揮し、生徒自身がデザインした探究的な学びを通して～ 4月～10月：よりよい人間関係を築くために表現方法や表現内容を試行錯誤し続ける生徒の育成
研修会	全教員対象	益田 裕充	6月「道徳授業ラボ『型を知って型破りになる道徳』」—「主人公の気持ちを追う道徳」から「登場人物の自我関与の道徳」へ—
研修会	全教員対象	益田 裕充	次期学習指導要領の改訂に向けた「論点整理」について

## (2) 共同研究例

### ○ 道徳科 共同研究授業実践

- ・テーマ 「道徳授業ラボ『型を知って型破りになる道徳』～「主人公の気持ちを追う道徳」から「登場人物の自我関与の道徳へ」～」
- ・対象：全教職員
- ・期日：令和7年6月11日(水)
- ・概要：群馬大学理科教育講座教授益田裕充先生と十文字学園女子大学浅見哲也先生（前教科調査官）をお招きし、本校道徳教育推進教員の木村貴博先生の昨年度の公開研究会の授業を映像で途中で区切りながら、パネルディスカッション形式で議論がなされた。本研修では、公開授業の映像を手がかりに、道徳授業における「型」とは何かを具体的に学んだ。ここでいう「型」とは、価値を一方向的に教え込む指導技術ではなく、生徒が自ら問いをもち、他者との比較や対話を通して考えを深め、最終的に自分の生き方へとつなげていく思考のプロセスを意図的に設計することである。授業映像では、「他者と比べること」を単純に否定するのではなく、比べ方や向き合い方によっては自己理解や向上心につながることを問いとして扱っていた。これにより、生徒は「比べる・比べない」という二項対立を超え、自分らしさとは何かを多面的・多角的に考えることができていた。また、「心の数直線」や「心の旅」といった手立てを通して、生徒が自ら考えを可視化し、対話する相手を選び、考えを再構成する姿が見られた。これは、生徒の主体性（エージェンシー）を偶然に任せるのではなく、授業構造として保障している点に大きな特徴がある。さらに、発問においては、教材理解にとどまらず、「これからどのように生きたいか」という未来志向の問いへと時間軸を移すことで、価値理解が自己の生き方と結び付けて深められていた。

この実践は、「多面的・多角的なものの見方」や「道徳的価値の深い理解」を結果として生み出すためには、探究の過程そのものを精緻に設計することが重要であることを示しており、今後の道徳授業改善において汎用性の高い示唆を与えるものであった。本研修を通して、道徳授業において重要なのは、価値を教え込むことではなく、生徒が問いをもち、揺れ動きながら考え続ける過程を丁寧に設計することであると再認識した。今後は、生徒の主体性が自然に発揮されることを期待するのではなく、発問や活動の構造によってエージェンシーを保障する授業づくりを意識していきたい。また、現在の考えにとどまらず、未来の生き方へと視点を広げる発問を工夫し、生徒一人一人が自分らしい生き方について考えを深められる道徳授業の実践に生かしていきたい。

#### 4. 附属特別支援学校

##### (1) 共同研究一覧

教科等	学部	特別支援学校教員	研究協力者・指導教員	時期	単元名・題材名／内容	
国語科	小学部	山崎 真由 竹淵 輝昭 斎藤 駿佑	東京福祉大学 保育児童学部保育児童学科 特別支援教育講座 国語教育講座	上田 征三 阿尾 有朋 河内 昭浩	6月～ 7月	「『とんとんとん』あつめて よもう 2くみのえほん!」(読むこと)
数学科	中学部	河内 英恵 本田 寛之 小林 弥生	高崎健康福祉大学 人間発達学部子ども教育学科 数学教育講座	浦崎 源次 澤田麻衣子	9月～ 11月	「かたちをみつけよう」(図形)
図画美術 工作科	中学部	高橋 初穂 小須田朱里	特別支援教育講座 美術教育講座	霜田 浩信 林 耕史	9月～ 11月	「『すてき』にかざろう」(デザイン)
	高等部	羽子田瑞穂 小泉龍之介 高坂 周平 小倉 彩	特別支援教育講座 美術教育講座	中村 保和 林 耕史	9月～ 11月	「かたちとわたし～組み合わせて広がる世界～」(絵画)
保健体育科	中学部	島田 大樹 河内 英恵 小林 弥生	高崎健康福祉大学 人間発達学部子ども教育学科 特別支援教育講座 保健体育講座	浦崎 源次 霜田 浩信 木村 素子 中雄 勇人	6月～ 7月	「かまえて ふって うって 剣道の達人になろう」(武道)
	小学部	須藤 也子 武井 香織 竹淵 輝昭 長田 紗綾	東京福祉大学 保育児童学部保育児童学科 特別支援教育講座 保健体育講座	上田 征三 阿尾 有朋 中雄 勇人	9月～ 11月	「ぼーるらんどで みて! なげよう!」 (ボール遊び・ボールを使った運動やゲーム)
	全学部	小泉龍之介 小林 弥生 須藤 也子	保健体育講座	木山 慶子	11月	「ダンス交流」(身体表現)
生活単元学習	小学部	猪浦 彩夏 矢野 修平 清水 愛	東京福祉大学 保育児童学部保育児童学科 特別支援教育講座	上田 征三 阿尾 有朋	9月～ 11月	「つくってあそぼう ○○らんど」 (教科等を合わせた指導)
	高等部	和田 拓 酒井 莉紗 大友みのり	特別支援教育講座 特別支援教育講座	金澤 貴之 木村 素子	9月～ 11月	「計画的にお金を使おう」(教科等を合わせた指導)
学習業	高等部	高坂 周平 小倉 彩 小泉龍之介	特別支援教育講座 特別支援教育講座	金澤 貴之	6月～ 7月	「スキルを身に付けて依頼された仕事をしよう」 (教科等を合わせた指導)
その他	小学部	小越 薫子 武井 香織 須藤 也子 長田 紗綾	特別支援教育講座	阿尾 有朋	8月～ 11月	卒業論文:「国際セクシュアリティ教育ガイドンスを元にした『関係性』指導プログラムの開発～知的障害児における包括的性教育の系統的な学びの検討～」(研究支援)
	小学部	小越 薫子 猪浦 彩夏 矢野 修平 清水 愛	特別支援教育講座	霜田 浩信	7月～ 12月	卒業論文:「担任の先生と実習生というかわり手の違いによって見られるダウン症児の行動の変化に着目した自律的な行動を促す支援の検討」(研究支援)
	高等部	小島 靖弘 小泉龍之介	特別支援教育講座	霜田 浩信	7月～ 3月	卒業論文:「知的障害のある生徒にに対する筋力トレーニングの支援方法の検討～身体的・認知的機能の分析を通して～」(研究支援)
	学部外	上坂美香子 真下 和将	広島都市学園大学 子ども教育学部子ども教育学科 特別支援教育講座	竹林地 毅 霜田 浩信	11月	講演会・意見交流会:「知的障害のある子どもの自立と社会参加に向けて～子どもが思いや考えを巡らせながら課題に向かう授業の在り方を考える～」
		島田 大樹 城田 謙司	特別支援教育講座 国語講座	霜田 浩信 河内 昭浩 木山 慶子	9月	群馬大学教育実践研究:知的障害特別支援学校における「読む活動」を深める授業実践～生徒の実態に応じた手立ての有効性～

## (2) 共同研究例

### ○ 生活単元学習 共同研究授業実践

- ・テーマ：自分の思いや考えをもち、社会とかかわる児童生徒の育成  
～子どもが願いの実現に向かう中で、思いや考えを巡らせる授業実践～
- ・単元名：「計画的にお金をつかおう」
- ・対象：高等部 1年生5名 2年生5名 計10名
- ・授業実践者：和田 拓, 酒井 莉紗, 大友みのり
- ・期日：令和7年11月7日（金）
- ・概要：

本単元は、卒業後の生活を見据えて、予算に合わせてお金をやりくりしたり、自分にとって必要なものを判断しながら買い物をしたりするために、金銭を管理する力を高めることをねらいとした。主な活動としては、1ヶ月間の生活、複数月の生活を「生活体験ゲーム」による模擬体験をする中で、1万円（レプリカのお金）を使って買い物をしたり、お金をやりくりしたりする活動を行った。

単元の導入では、「1万円札でなにができる？何が買える？」をテーマに、買い物ブースで1万円を自由に使う体験をし、友達のお金の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を振り返った。また、対象生徒Aは、チョコレートや弁当などを買ったり、ボウリング代を支払ったりした。お金の使い方で失敗した教師の経験を聞くと、不安になる様子やどうすればいいんだろうと疑問を抱く様子が見られた。

単元の展開では、「計画的にお金を使おう」をテーマに、「生活体験ゲーム」を行い、予算計画を立てたり、使い方を振り返ったりした。対象生徒Aは、繰り返し行う中で、お小遣いが入ると、「3000円は貯金して、ギターを買う」と、貯金をしたり、同じ商品でも安い方を選んで購入したりする姿が見られるようになった。

単元のまとめでは、「計画的にお金を使えるようになったか確かめよう」をテーマに、1ヶ月目の1万円の使い方を振り返った。対象生徒Aは、購入しない選択や商品を比べて買うものを考え「（1ヶ月目と比べて）今であれば3,000円近く貯金できた」と気付く姿が見られた。

授業構想シート		授業実践の様子（授業）	
単元名	「計画的にお金をつかおう」	単元名	「計画的にお金をつかおう」
対象生徒	1年生5名 2年生5名 計10名	単元名	「計画的にお金をつかおう」
単元の目標	1. 1万円のお金を自由に使う体験をし、友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。	単元名	「計画的にお金をつかおう」
単元の学習	1. 1万円のお金を自由に使う体験をし、友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。	単元名	「計画的にお金をつかおう」
学習活動	実践の様子	観察・感想	実践の様子
第1次 （1）1万円のお金を自由に使う体験をし、友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。	1. 1万円札を1000円札に換えて、1万円を自由に使う体験をし、友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。	1. 1万円札を使って、自分の好きなものを買おうとする。友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。	1. 1万円札を使って、自分の好きなものを買おうとする。友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。
第2次 （2）1万円のお金を自由に使う体験をし、友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。	2. 1万円札を1000円札に換えて、1万円を自由に使う体験をし、友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。	2. 1万円札を使って、自分の好きなものを買おうとする。友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。	2. 1万円札を使って、自分の好きなものを買おうとする。友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。
第3次 （3）1万円のお金を自由に使う体験をし、友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。	3. 1万円札を1000円札に換えて、1万円を自由に使う体験をし、友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。	3. 1万円札を使って、自分の好きなものを買おうとする。友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。	3. 1万円札を使って、自分の好きなものを買おうとする。友達の使い方と比較することを通して、自分のお金の使い方を見直す。

構想シートの一部



## 報告書の作成 担当者

共同教育学部 附属小学校校長	足達 哲也
共同教育学部 附属小学校 教頭	内田 圭祐
共同教育学部 教授（教育実践センター）	吉田 浩之
共同教育学部 准教授（教育実践センター）	佐々木英男

2025 年度 群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室

学部・附属学校共同研究推進委員会 報告書

---

2026 年 3 月

発行 群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室  
学部・附属学校共同研究推進委員会  
群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地  
電話（直通） 027-220-7385（事務局）  
ファクシミリ 027-220-7381（事務局）

---